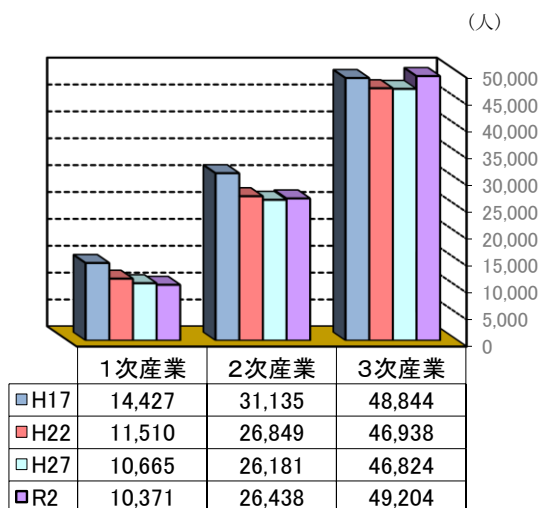


4 産 業

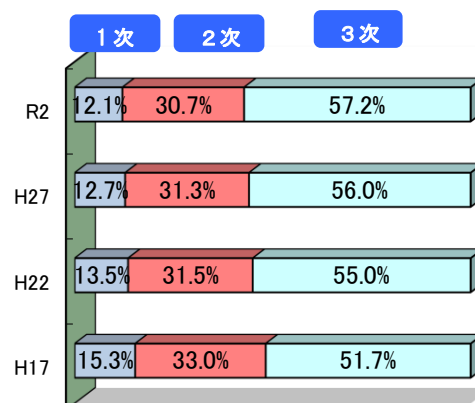
(1) 産業別人口

令和2年の産業従事者は約8万6千人で、第3次産業が57.2%、第2次産業が30.7%、第1次産業が12.1%となっています。令和2年の産業従事者は平成27年に比べ、約2千人増加しました。

【産業別従事者数】



【同構成比】



出典：国勢調査

(2) 農 業

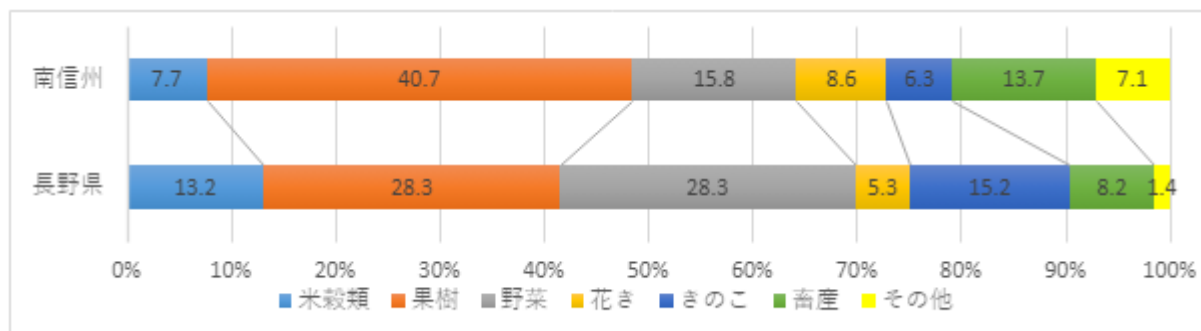
地形的には中山間傾斜地が多く、一農業経営体当たりの耕地面積は81aと県平均148aより小規模ですが、温暖な気候と標高差を活かし、多種多様な作物が生産されています。

農産物産出額は、果樹・畜産が全体の約4割を占めており、農産物の加工やグリーン・ツーリズム等、農業・農村資源を活用した取組も見られます。

また、「市田柿」は、地域と結び付き、品質基準を満たす農産物等の名称を知的財産として保護する「地理的表示（GI）保護制度」に登録されたことを契機に、更なるブランド構築や輸出拡大を目指した取組が進められています。しかし、年々農業者の高齢化が進んでおり、園地継承や担い手の確保、育成が課題となっています。

【部門別農産物産出額比率】

(単位%)



出典：「令和4年産農産物産出額等実績」

(3) 工 業

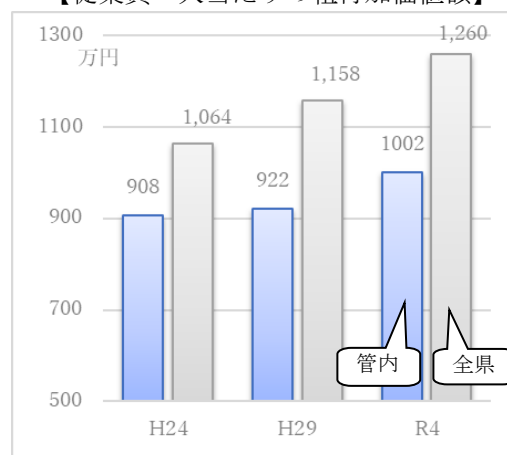
管内は、部品の加工や組立を行う企業が多く、令和4年の製造品出荷額等は3,732億円、従業員1人当たりの粗付加価値額は1,002万円となっています。

また、当地域の水引・凍豆腐・半生菓子等の特色ある地場産業は、国内の高いシェアを占めています。

そのほか、当地域では、航空宇宙産業の集積にも取り組んでいます。

県が策定した「長野県航空機産業振興ビジョン」では、当地域が振興の中核拠点と位置付けられ、人材育成、研究開発及び環境試験などが実施されています。

【従業員一人当たりの粗付加価値額】



出典：「工業統計調査、経済構造実態調査」より（R4年度は集計対象範囲が異なる。）

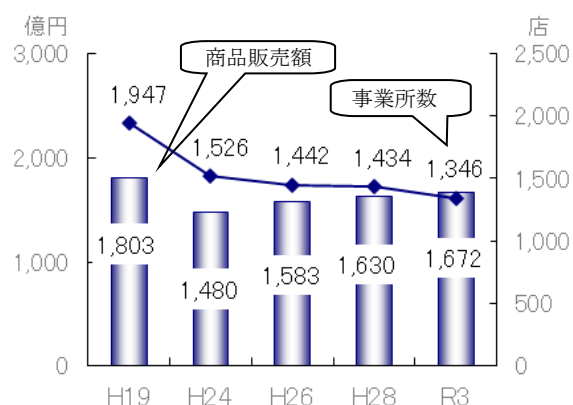
(4) 商 業

令和3年の小売業の年間商品販売額は1,672億円、事業所数は1,346店です。

市町村別では、飯田市が年間商品販売額全体の75%を占め、松川町、高森町を含めると90%となります。

なお、店舗面積1,000㎡超の大規模小売店舗は、令和7年4月1日現在で38店舗となっています。

【年間商品販売額・事業所数】



出典：「商業統計」「経済センサス」

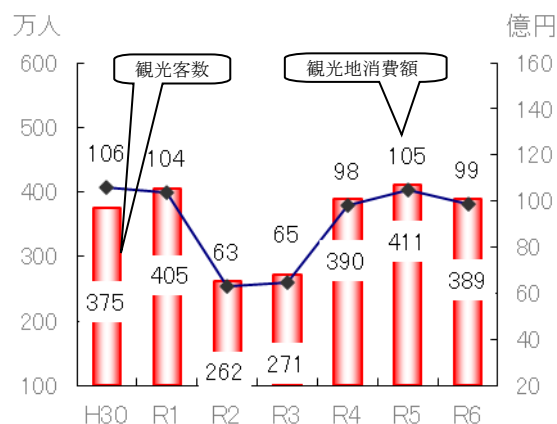
(5) 観 光

令和6年の観光客数は延べ389万人（観光地利用者統計速報値）と、園原インター線の土砂崩落による影響もあり、対前年比で約5%の減少となりました。

地域の特色としては、恵まれた自然環境、豊かな食文化、温泉をはじめとした多様な観光資源が広い地域内に点在する小規模分散型となっています。

観光客は中京圏・東海地域を中心に県外客が6割、日帰り客が8割を占める通過型の観光地となっていることから、一人当たりの観光消費額は県平均に比べ少なくなっています。

【観光客数・観光地消費額】



出典：「観光地利用者統計調査」

(6) 林 業

当地域の森林面積は約16万ha、森林率は約86%で、県平均の78%を上回っています。

3つの森林組合を中心に間伐や素材生産が進められているほか、信州木材製品認証や森林認証の取得など、木材利用促進の取組が行われています。

林業生産額は約7.4億円（R 5年）で、きのこなど特用林産物が4割強を占めています。

近年では、地域課題である放置竹林からの竹資源の活用や、野生鳥獣対策としてのジビエ利用の取組も行われています。

【林業生産額】

